

日本における 移民の社会統合を考える

二〇一八年全国調査の結果から

二〇一八年の出入国管理法の改定にあらわされるように、外国人労働者の受入れが技能の範囲の面でも、人数の面でも拡大しています。また、永住資格取得者数も年々増加し、定住も進んできました。こうした状況の中で、日本においても移民の社会統合を達成するための制度設計が急務となつていきます。

日本ではこれまで様々な制約から、移民を対象とした調査は、地域を限定したものが実施されるにとどまり、日本全国を代表する形での調査は実施されてきませんでした。そのため、社会統合の状況自体も十分に把握されていません。

そこで、私たち研究グループは、新たな試みとして二〇一八年に外国籍者を対象とする全国調査を実施しました。本シンポジウムでは、そこで得られた結果をもとに、移民の社会経済的地位と社会統合の状況の在り方を含め、様々な社会制度が社会統合に与える影響を検討します。

日時 2020年3月28日(土)

13:00 ~ 17:00

会場 東京大学赤門総合研究棟
5階 センター会議室

プログラム

- 13:00-13:05 趣旨説明 永吉希久子(東北大学)
- 13:05-13:20 外国籍者調査の設計と実査における問題
前田忠彦(統計数理研究所)
- 13:20-14:20 第一部：外国籍者の社会経済的地位
雇用の安定性と職業 永吉希久子(東北大学)
賃金 竹ノ下弘久(慶応義塾大学)
教育 石田賢示(東京大学)
- 14:35-15:35 第二部：外国籍者の社会統合
メンタルヘルス 長松奈美江(関西学院大学)
日本への意識 五十嵐彰(立教大学)
日本への定住意識 木原盾(Brown University)
- 15:50-16:20 コメンテーターからのコメント
上林千恵子(法政大学)
是川夕(社会保障・人口問題研究所)
- 16:20-17:00 全体討論

参加無料

当日参加可能ですが、下記から事前申し込みをお願いいたします。

<https://forms.gle/PyK7dtCvwZBTW5gi6>

